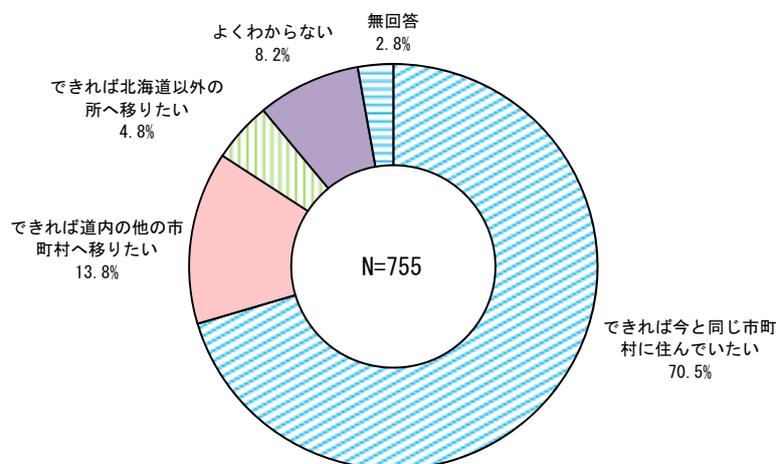


7 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて

問 33 あなたは、現在住んでいる市町村にこれからも住みたいと思いますか。
次の中から 1つだけ お選びください。



【全体】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」(70.5%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「できれば道内の他の市町村へ移りたい」(13.8%)、「よくわからない」(8.2%)の順となっている。

【圏域別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、道央広域連携地域(73.7%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(70.5%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、釧路・根室連携地域(26.5%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(25.8%)となっている。

【人口規模別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、札幌市(82.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(72.4%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、町村部(24.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(22.7%)となっている。

【性別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、男性74.0%、女性67.9%となっており、「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、男性10.7%、女性16.7%となっている。

【年代別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、70歳以上(94.1%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(78.0%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、18～29歳(18.1%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(15.9%)となっている。

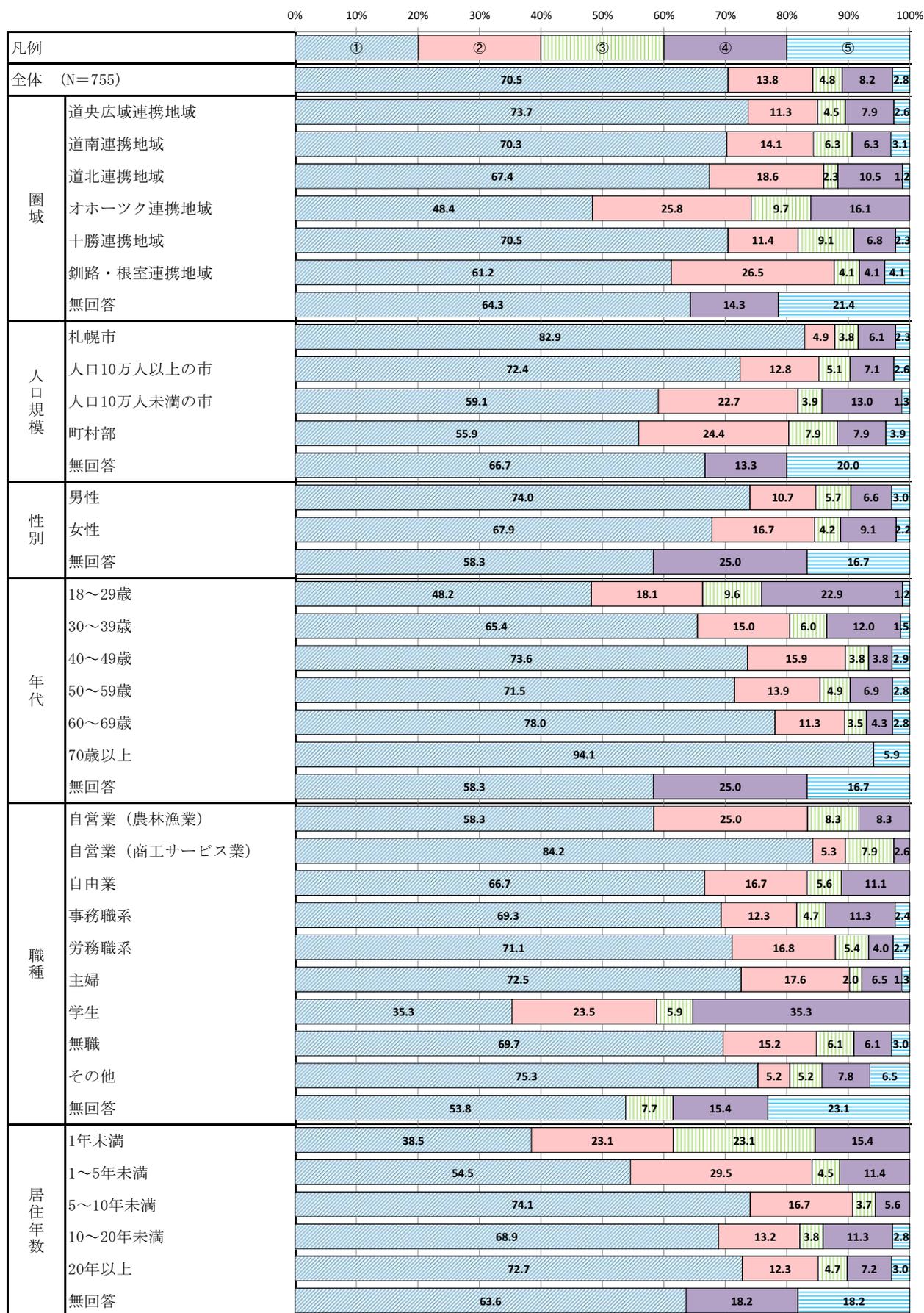
【職種別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、自営業(商工サービス業)(84.2%)が最も割合が高く、次いでその他(75.3%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、自営業(農林漁業)(25.0%)が最も割合が高く、次いで学生(23.5%)となっている。

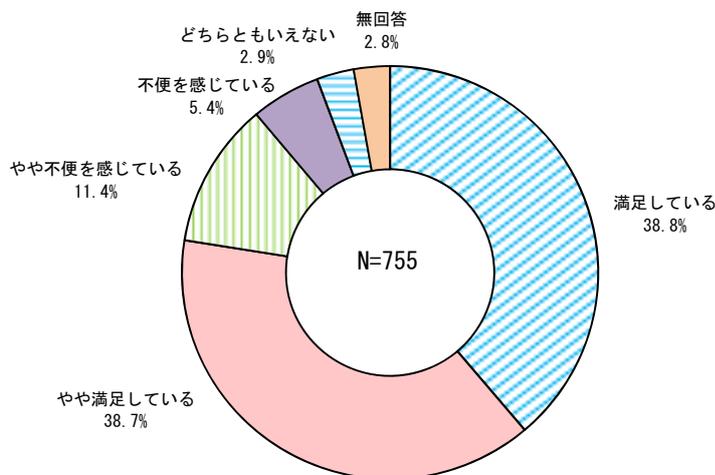
【居住年数別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、5～10年未満(74.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(72.7%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、1～5年未満(29.5%)が最も割合が高く、次いで1年未満(23.1%)となっている。

①できれば今と同じ市町村に住んでいたい ②できれば道内の他の市町村へ移りたい
 ③できれば北海道以外の所へ移りたい ④よくわからない ⑤無回答



問 34 あなたは、食料品などの日々の買い物に満足を感じていますか。
次の中から 1つだけお選びください。



【全体】

「満足している」(38.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「やや満足している」(38.7%)、「やや不便を感じている」(11.4%)の順となっている。

【圏域別】

「満足している」については、道央広域連携地域(43.0%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(36.4%)となっている。「やや満足している」については、道北連携地域(46.5%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(40.9%)となっている。

【人口規模別】

「満足している」については、札幌市(48.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(44.4%)となっている。「やや満足している」については、人口10万人未満の市(39.6%)が最も割合が高く、次いで町村部(39.4%)となっている。

【性別】

「満足している」については、男性43.0%、女性36.0%となっており、「やや満足している」については、男性36.4%、女性40.4%となっている。

【年代別】

「満足している」については、70歳以上(50.0%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(42.4%)となっている。「やや満足している」については、60～69歳(44.7%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(42.1%)となっている。

【職種別】

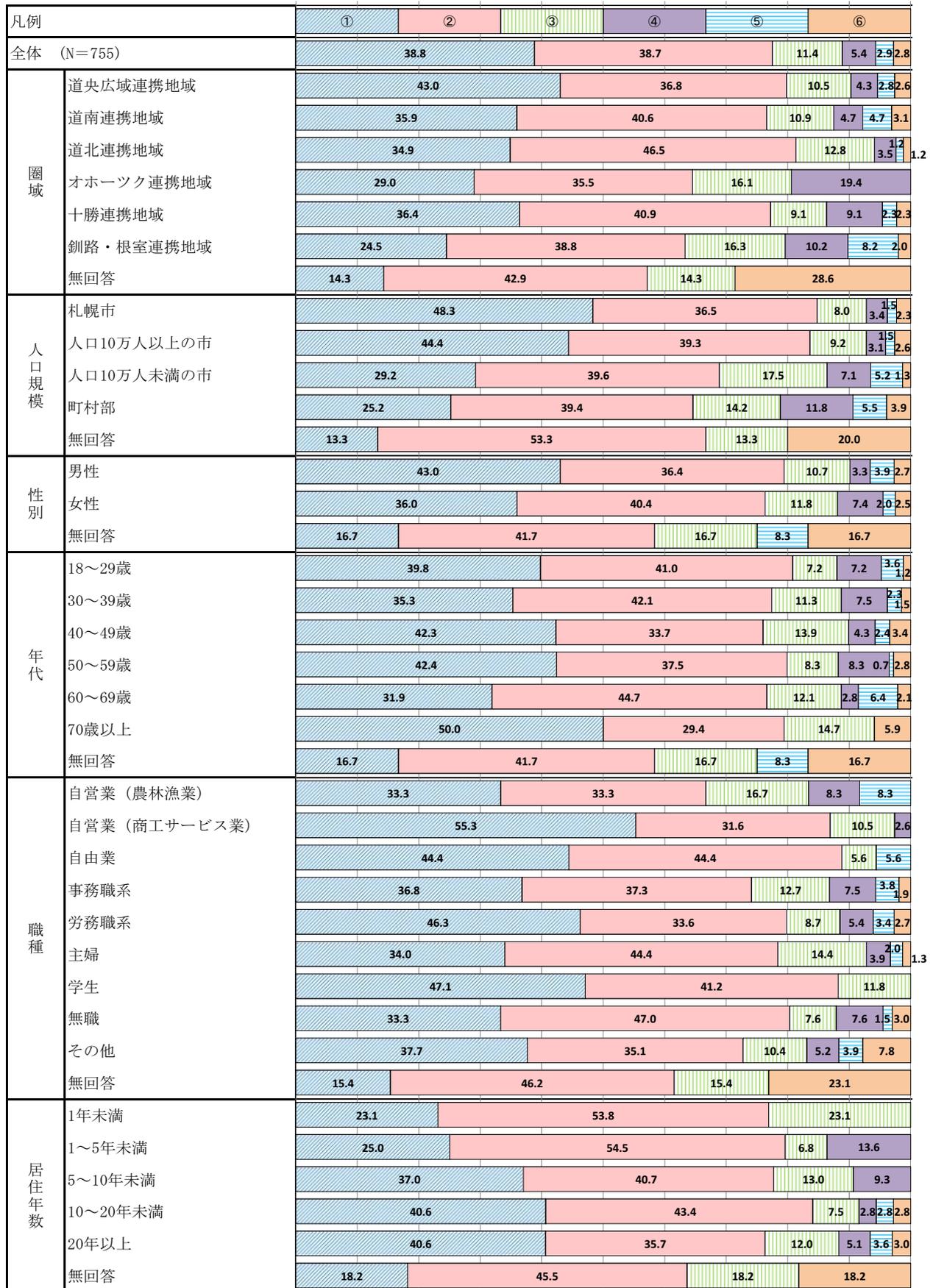
「満足している」については、自営業(商工サービス業)(55.3%)が最も割合が高く、次いで学生(47.1%)となっている。「やや満足している」については、無職(47.0%)が最も割合が高く、次いで自由業(44.4%)と主婦(44.4%)となっている。

【居住年数別】

「満足している」については、10～20年未満(40.6%)と20年以上(40.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(37.0%)となっている。「やや満足している」については、1～5年未満(54.5%)が最も割合が高く、次いで1年未満(53.8%)となっている。

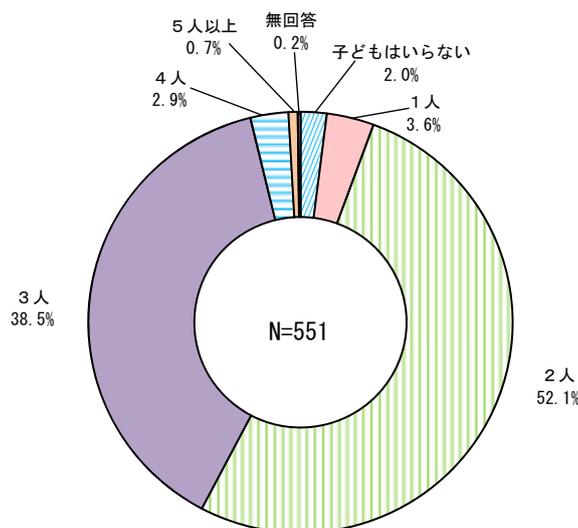
①満足している ②やや満足している ③やや不便を感じている
④不便を感じている ⑤どちらともいえない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 35 ※結婚されている方のみお答えください。

あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「2人」(52.1%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「3人」(38.5%)、「1人」(3.6%)の順となっている。

【圏域別】

「2人」については、道南連携地域(61.7%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(56.1%)となっている。「3人」については、釧路・根室連携地域(52.6%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(50.0%)となっている。

【人口規模別】

「2人」については、札幌市(57.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(51.4%)となっている。「3人」については、町村部(43.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(42.0%)となっている。

【性別】

「2人」については、男性52.2%、女性52.4%となっており、「3人」については、男性36.9%、女性39.5%となっている。

【年代別】

「2人」については、40～49歳(60.6%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(60.0%)となっている。「3人」については、70歳以上(52.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(47.3%)となっている。

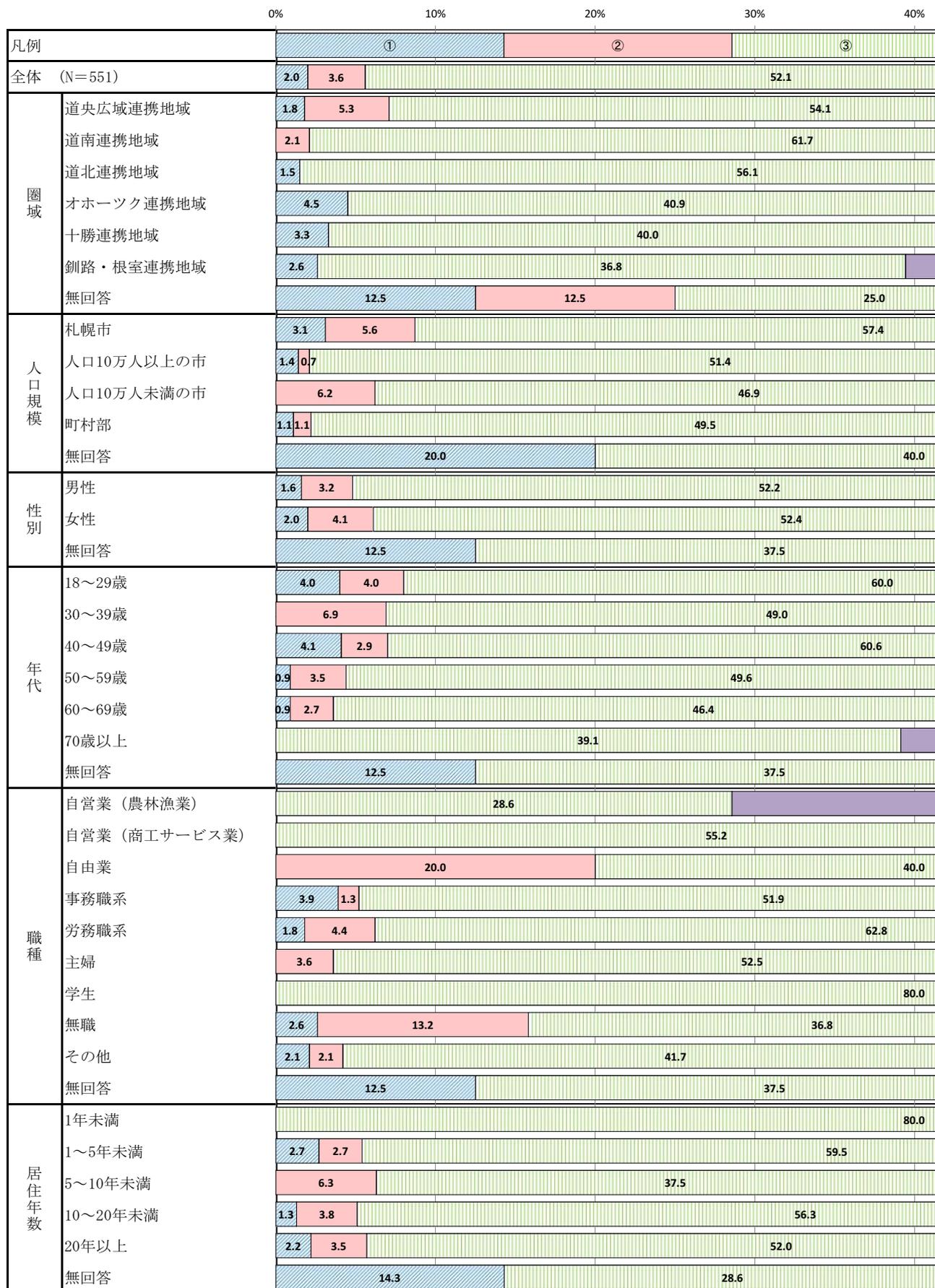
【職種別】

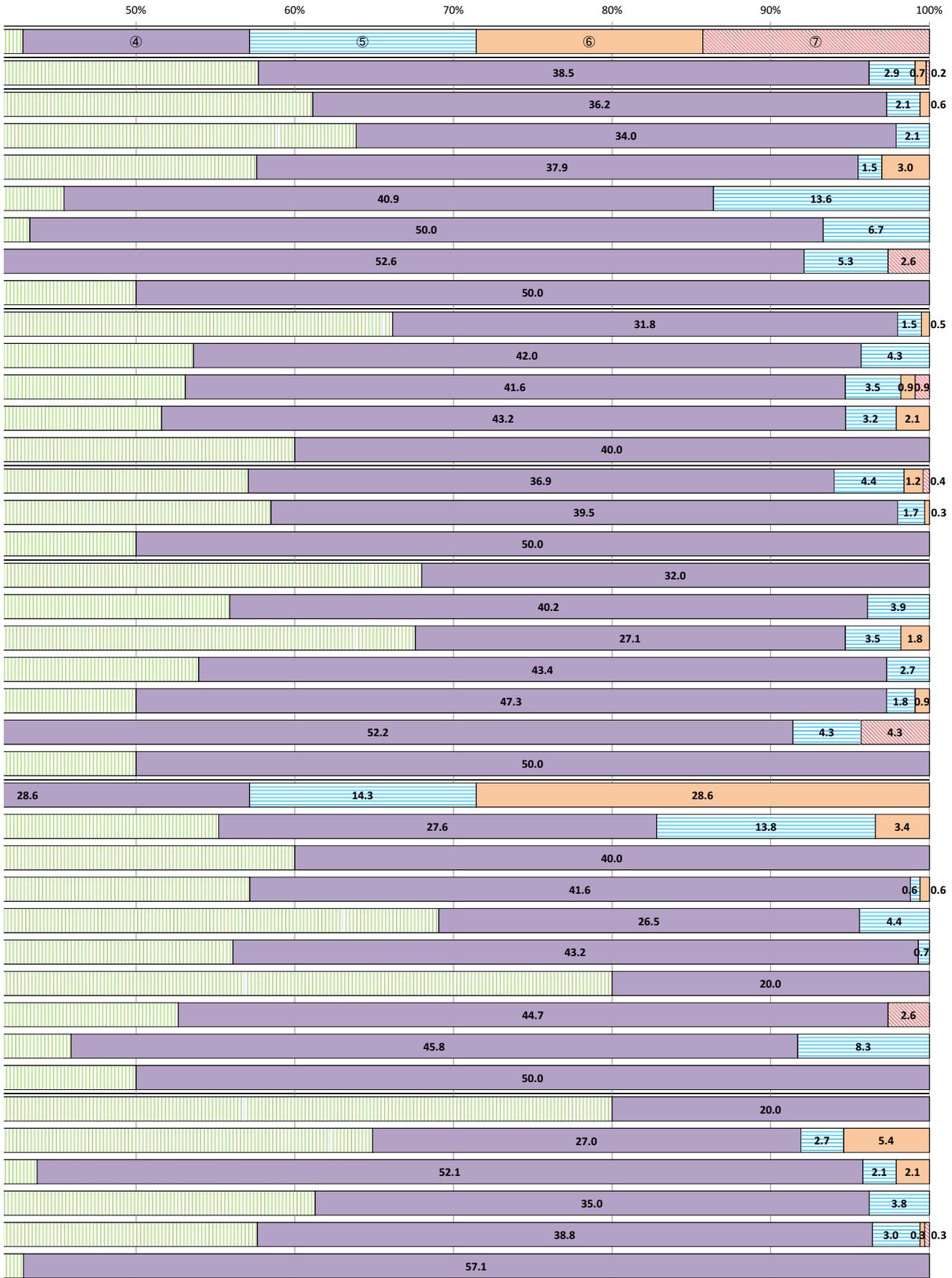
「2人」については、学生(80.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(62.8%)となっている。「3人」については、その他(45.8%)が最も割合が高く、次いで無職(44.7%)となっている。

【居住年数別】

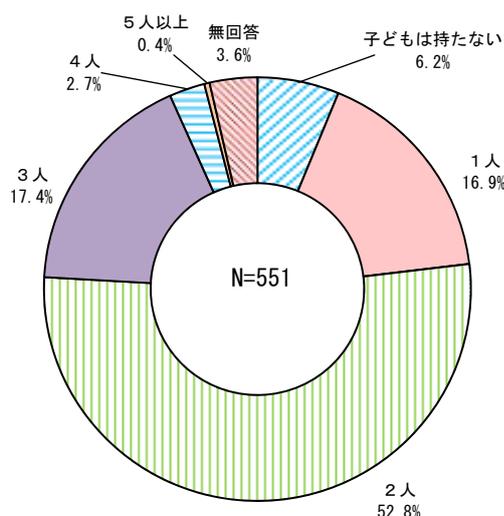
「2人」については、1年未満(80.0%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(59.5%)となっている。「3人」については、5～10年未満(52.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(38.8%)となっている。

①子どもはいらない ②1人 ③2人 ④3人 ⑤4人 ⑥5人以上 ⑦無回答





問 36 ※結婚されている方のみお答えください。
あなたは、何人のお子さんを持つおつもりですか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「2人」(52.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「3人」(17.4%)、「1人」(16.9%)の順となっている。

【圏域別】

「2人」については、道北連携地域(62.1%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(53.5%)となっている。「3人」については、釧路・根室連携地域(28.9%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(26.7%)となっている。

【人口規模別】

「2人」については、人口10万人以上の市(59.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(52.3%)となっている。「3人」については、町村部(26.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(16.8%)となっている。

【性別】

「2人」については、男性51.4%、女性54.1%となっており、「3人」については、男性17.7%、女性17.0%となっている。

【年代別】

「2人」については、70歳以上(78.3%)が最も割合が高く、次いで30~39歳(55.9%)となっている。「3人」については、18~29歳(24.0%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(23.6%)となっている。

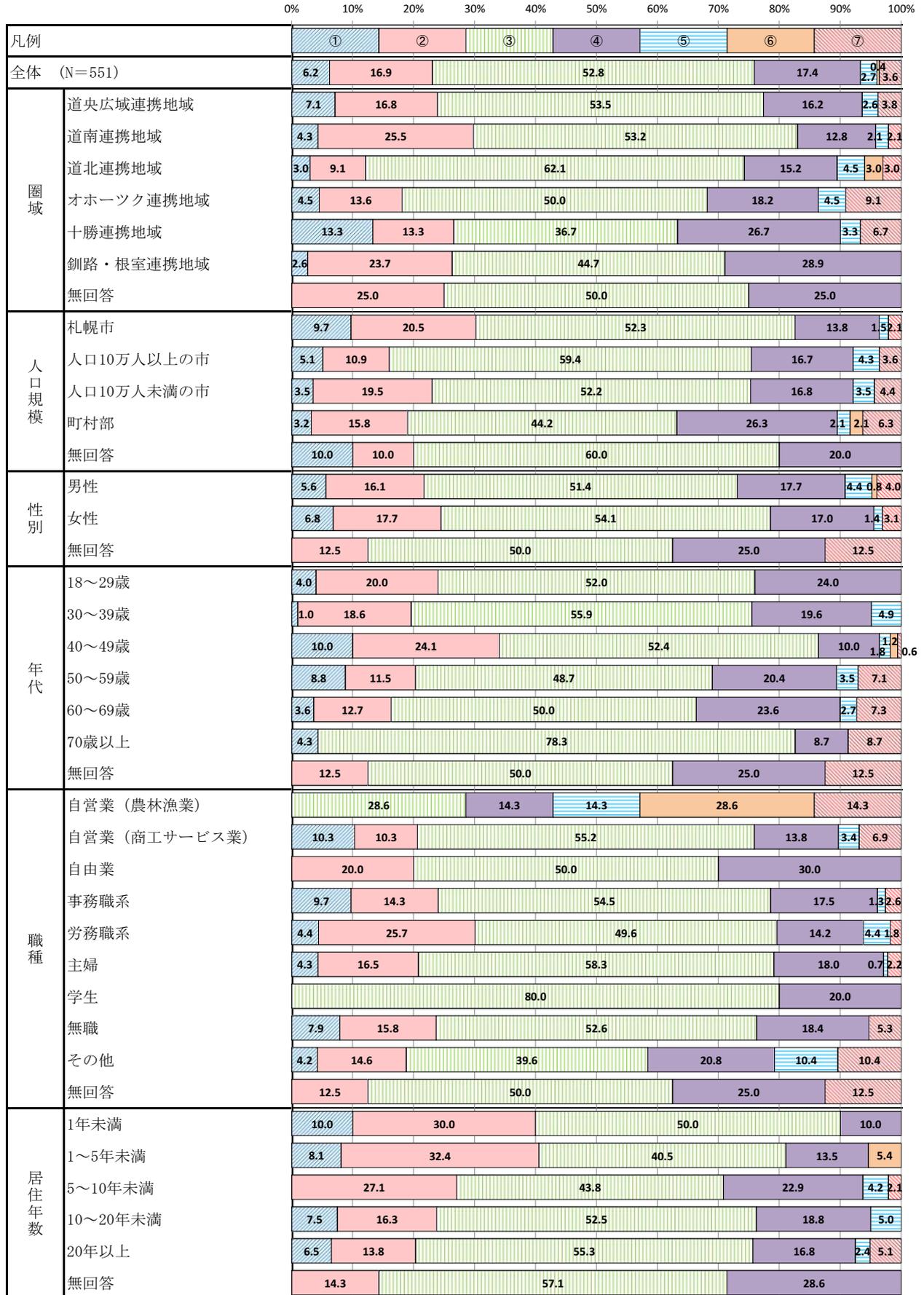
【職種別】

「2人」については、学生(80.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(58.3%)となっている。「3人」については、自由業(30.0%)が最も割合が高く、次いでその他(20.8%)となっている。

【居住年数別】

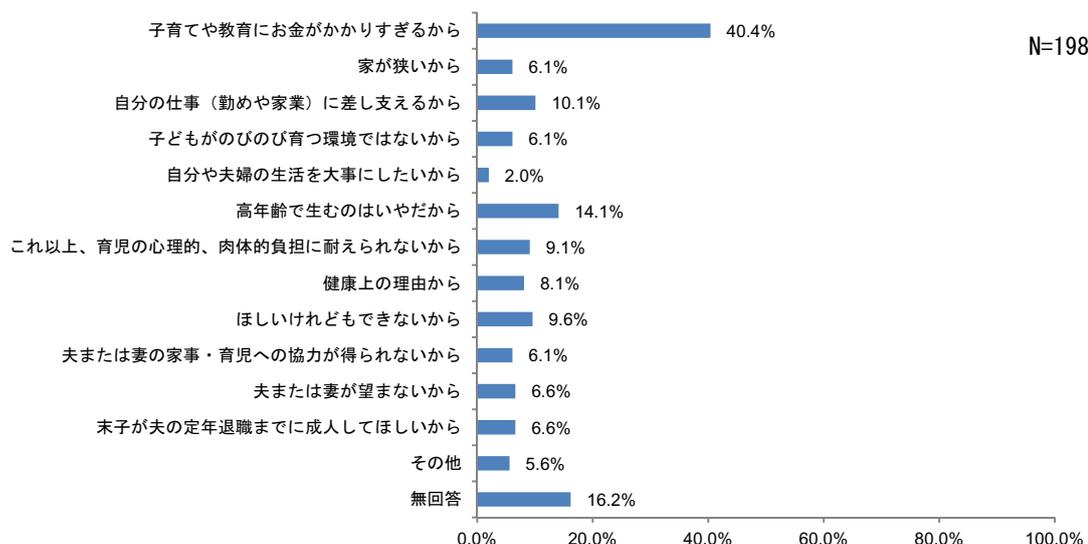
「2人」については、20年以上(55.3%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(52.5%)となっている。「3人」については、5~10年未満(22.9%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(18.8%)となっている。

①子どもはいらない ②1人 ③2人 ④3人 ⑤4人 ⑥5人以上 ⑦無回答



問 37-① ※結婚されている方のみお答えください。

問 36 で選んだ「実際に持つつもりの子どもの数」が、問 35 で選んだ「理想とする子どもの数」に比べて少ない方に伺います。その理由は何ですか。次の中から、いくつでもお選びください。



【全体】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（40.4%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」（14.1%）、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」（10.1%）の順となっている。

【圏域別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、釧路・根室連携地域（70.6%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（62.5%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、釧路・根室連携地域（23.5%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（15.0%）となっている。

【人口規模別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、町村部（48.1%）が最も割合が高く、次いで札幌市（44.7%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、人口 10 万人未満の市（16.3%）が最も割合が高く、次いで町村部（14.8%）となっている。

【性別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、男性 37.5%、女性 43.1%となっており、「高年齢で生むのはいやだから」については、男性 15.0%、女性 13.8%となっている。

【年代別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、18～29 歳（60.0%）が最も割合が高く、次いで 70 歳以上（54.5%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、40～49 歳（20.3%）が最も割合が高く、次いで 60～69 歳（15.6%）となっている。

【職種別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、その他（84.6%）が最も割合が高く、次いで主婦（43.4%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、自由業（50.0%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（23.1%）となっている。

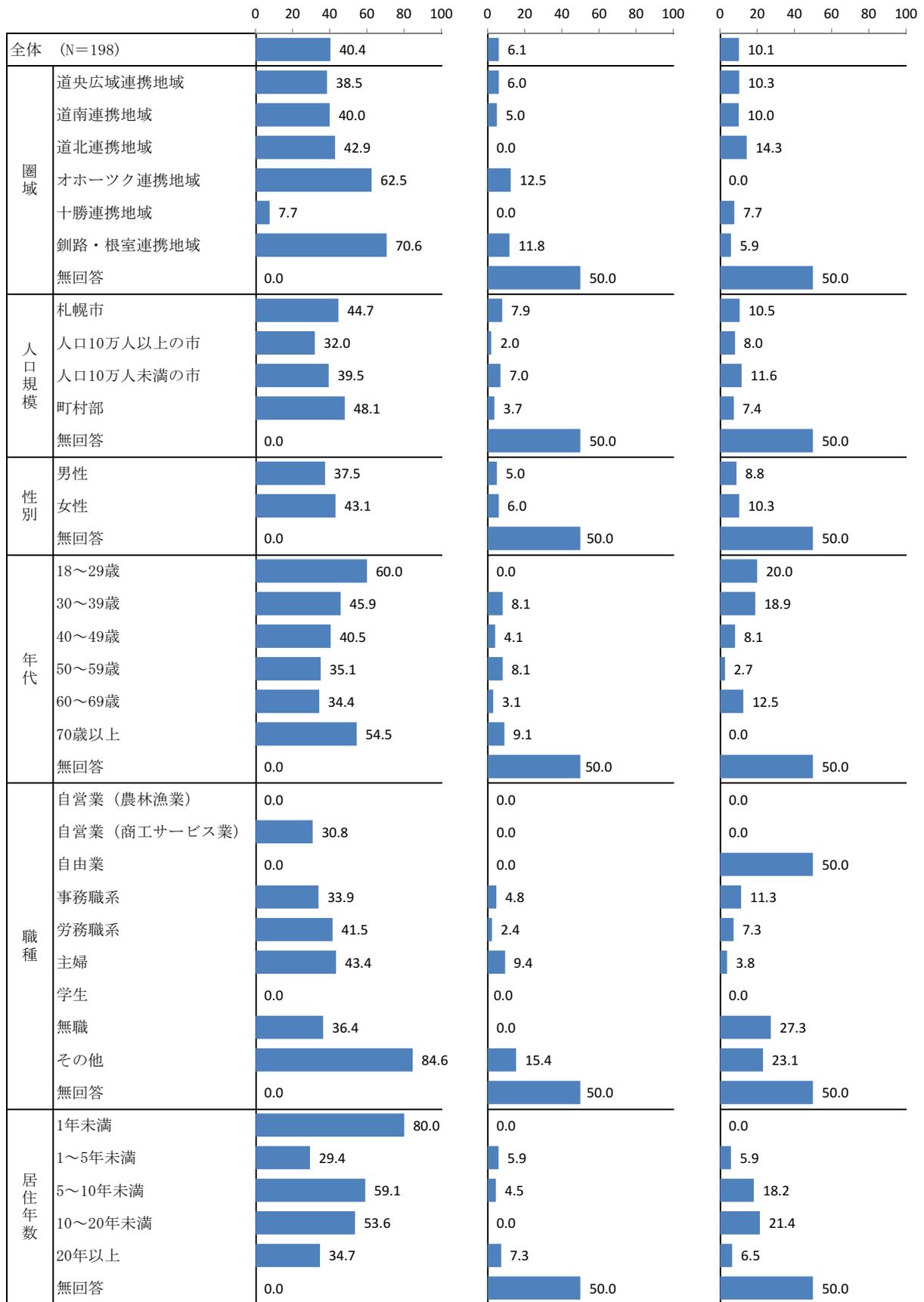
【居住年数別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、1 年未満（80.0%）が最も割合が高く、次いで 5～10 年未満（59.1%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、1 年未満（40.0%）が最も割合が高く、次いで 20 年以上（16.9%）となっている。

子育てや教育にお金がかかりすぎるから

家が狭いから

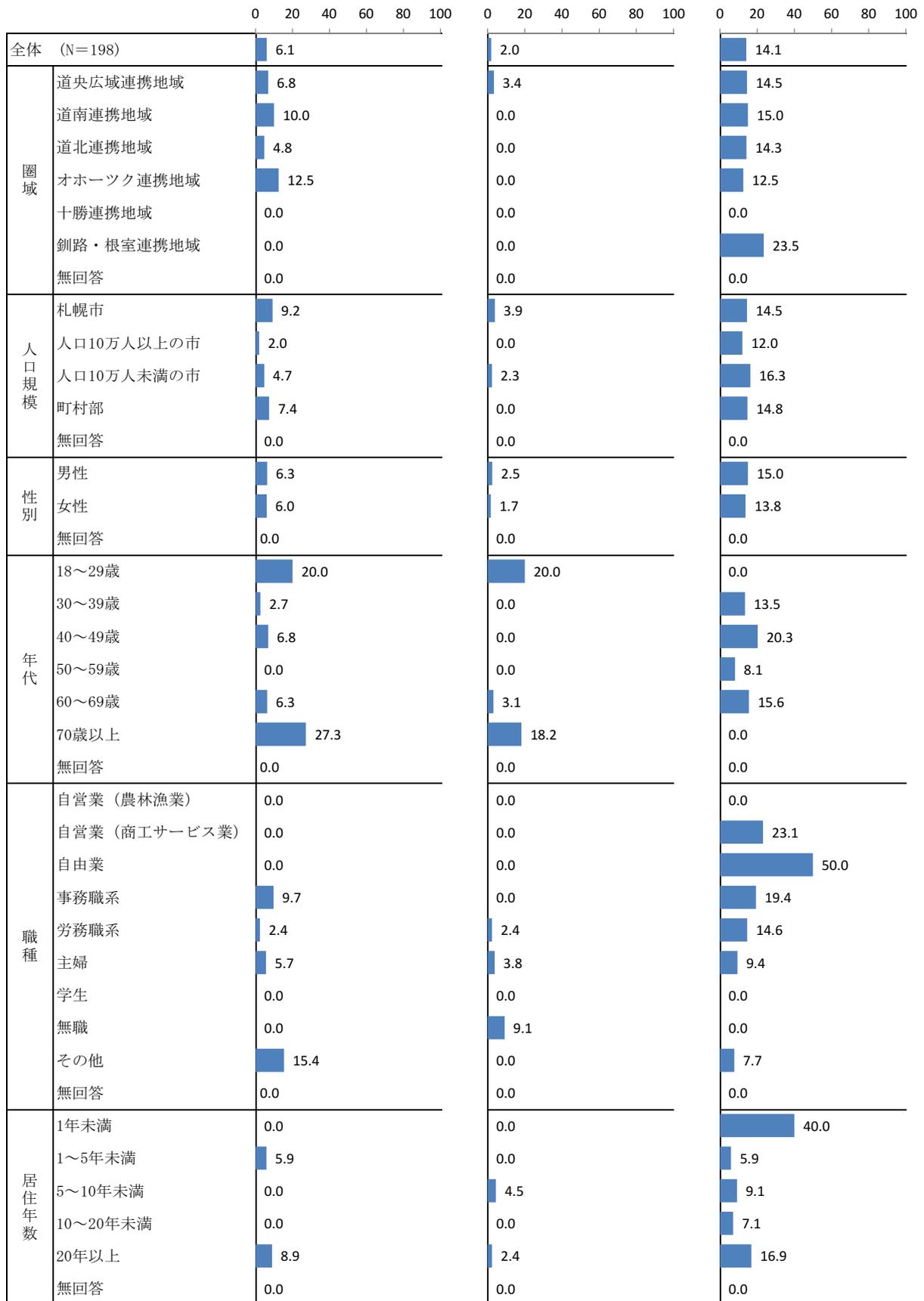
自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから



子どもがのびのび育つ環境ではないから

自分や夫婦の生活を大事にしたいから

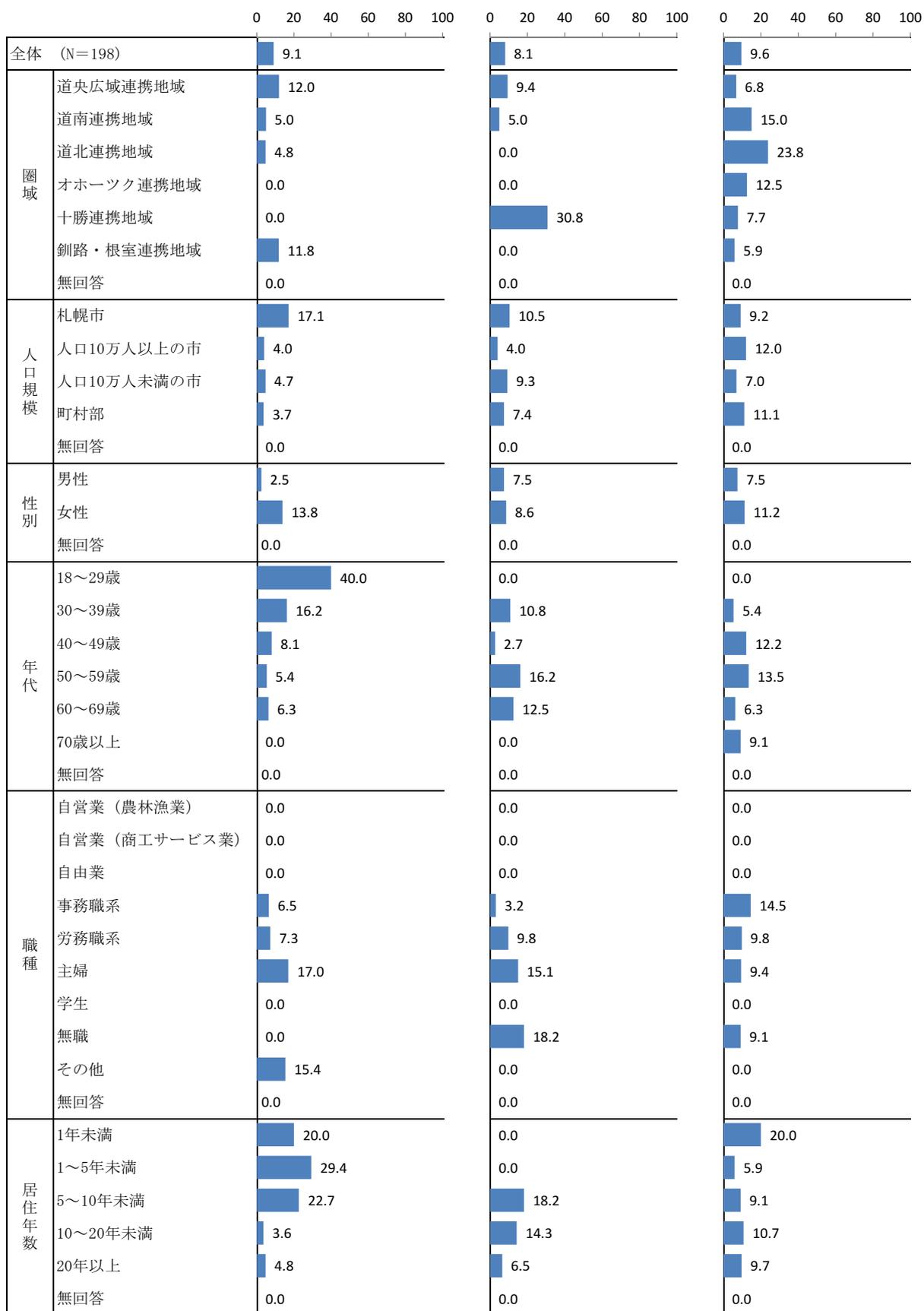
高年齢で生むのはいやだから



これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから

健康上の理由から

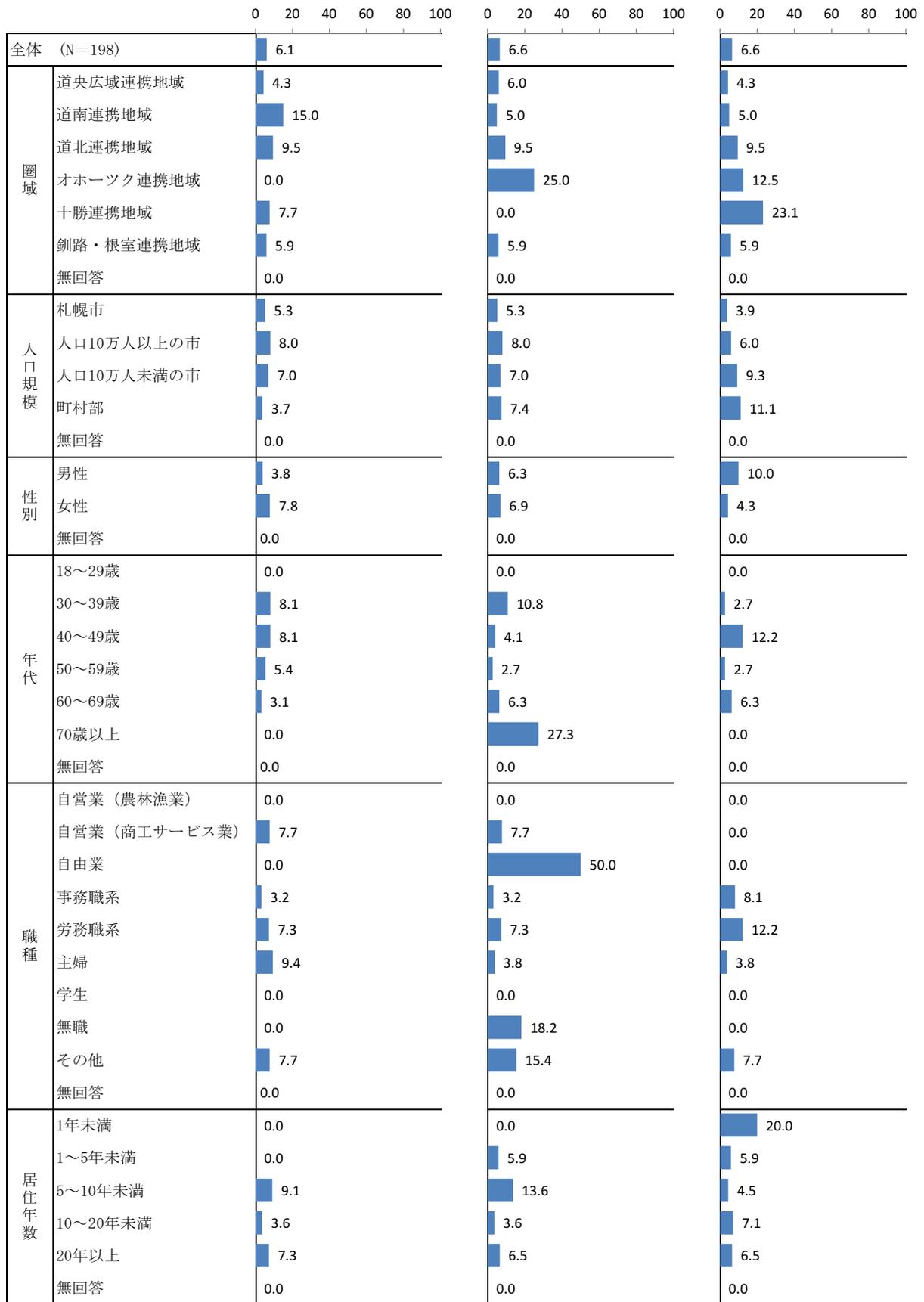
ほしいけれどもできないから

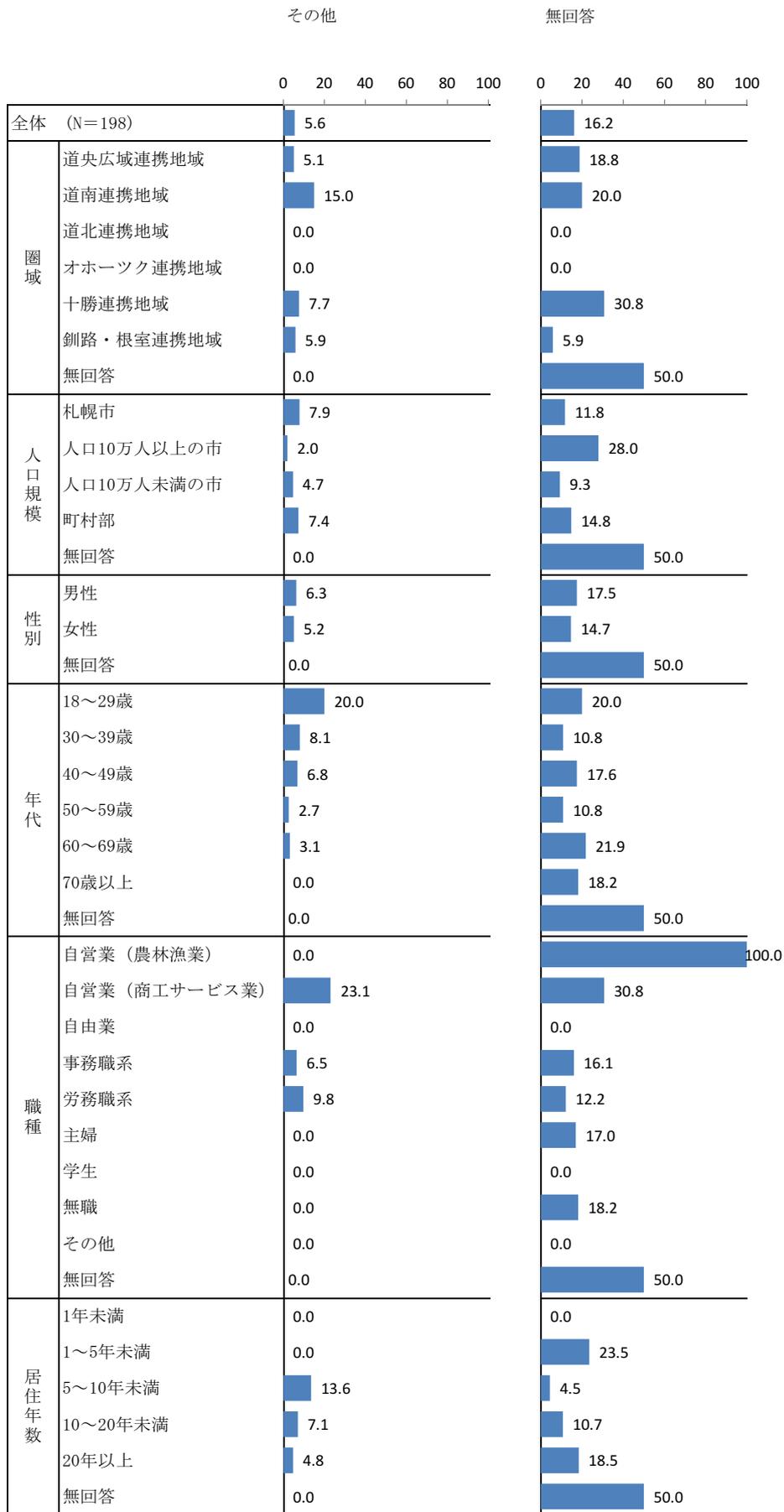


夫または妻の家事・育児への
協力が得られないから

夫または妻が望まないから

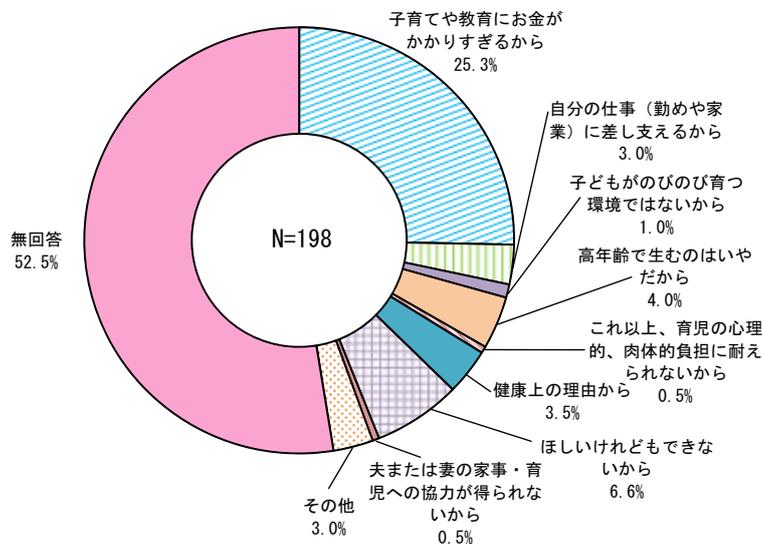
末子が夫の定年退職までに成
人してほしいから





問 37-② ※結婚されている方のみお答えください。

問 36 で選んだ「実際に持つつもりの子どもの数」が、問 35 で選んだ「理想とする子どもの数」に比べて少ない方に伺います。次の理由の中で最も重要な理由を1つだけ選び◎を付けてください。



【全体】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（25.3%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「ほしいけれどもできないから」（6.6%）、「高齢で生むのはいやだから」（4.0%）の順となっている。

【圏域別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、十勝連携地域（38.5%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（28.6%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、オホーツク連携地域（12.5%）が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域（10.3%）となっている。

【人口規模別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、人口 10 万人以上の市（32.0%）が最も割合が高く、次いで札幌市（23.7%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、人口 10 万人未満の市（11.6%）が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市（6.0%）となっている。

【性別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、男性 26.3%、女性 24.1%となっており、「ほしいけれどもできないから」については、男性 8.8%、女性 5.2%となっている。

【年代別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、18～29 歳（40.0%）が最も割合が高く、次いで 70 歳以上（36.4%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、60～69 歳（12.5%）が最も割合が高く、次いで 40～49 歳（9.5%）となっている。

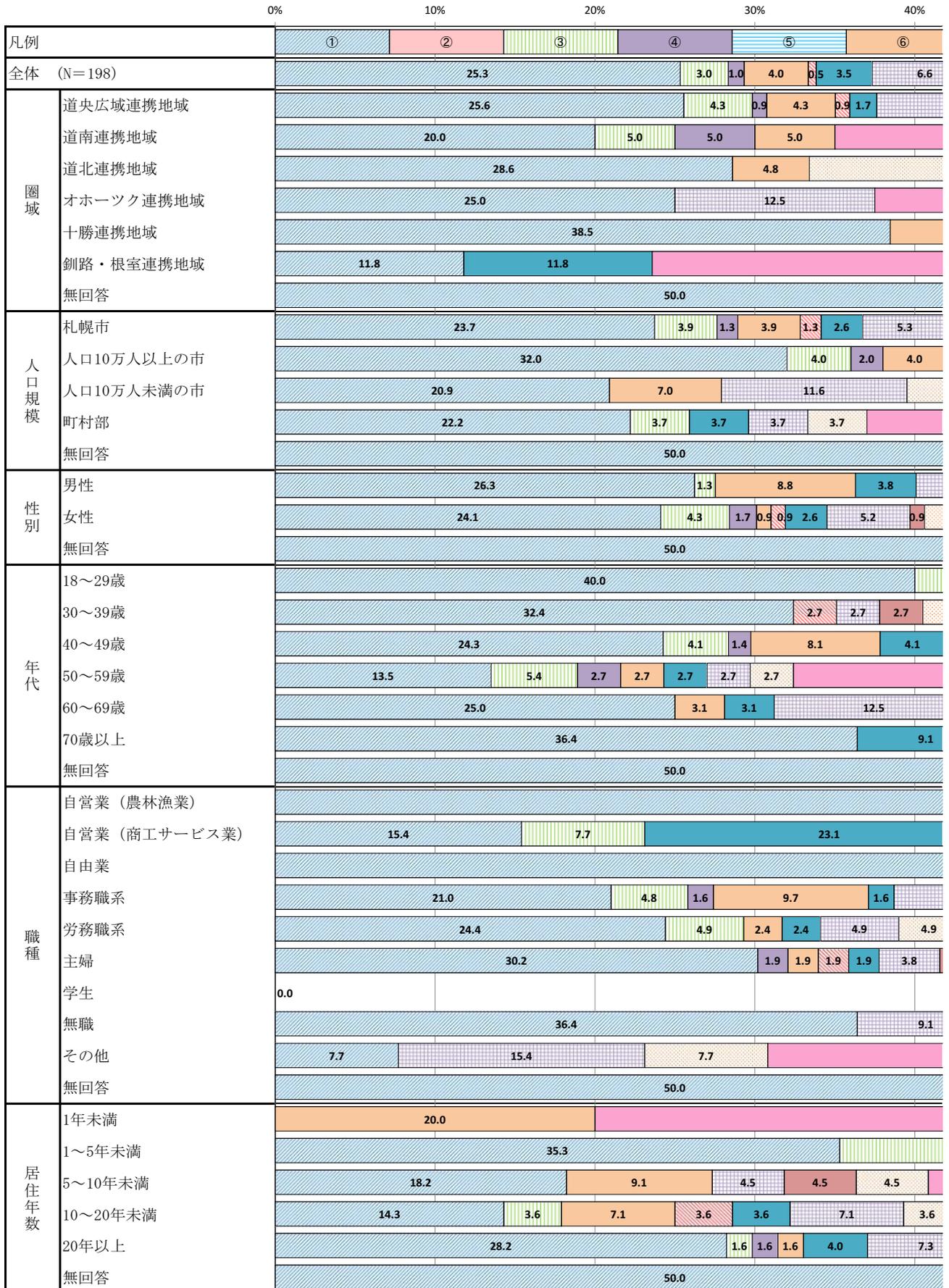
【職種別】

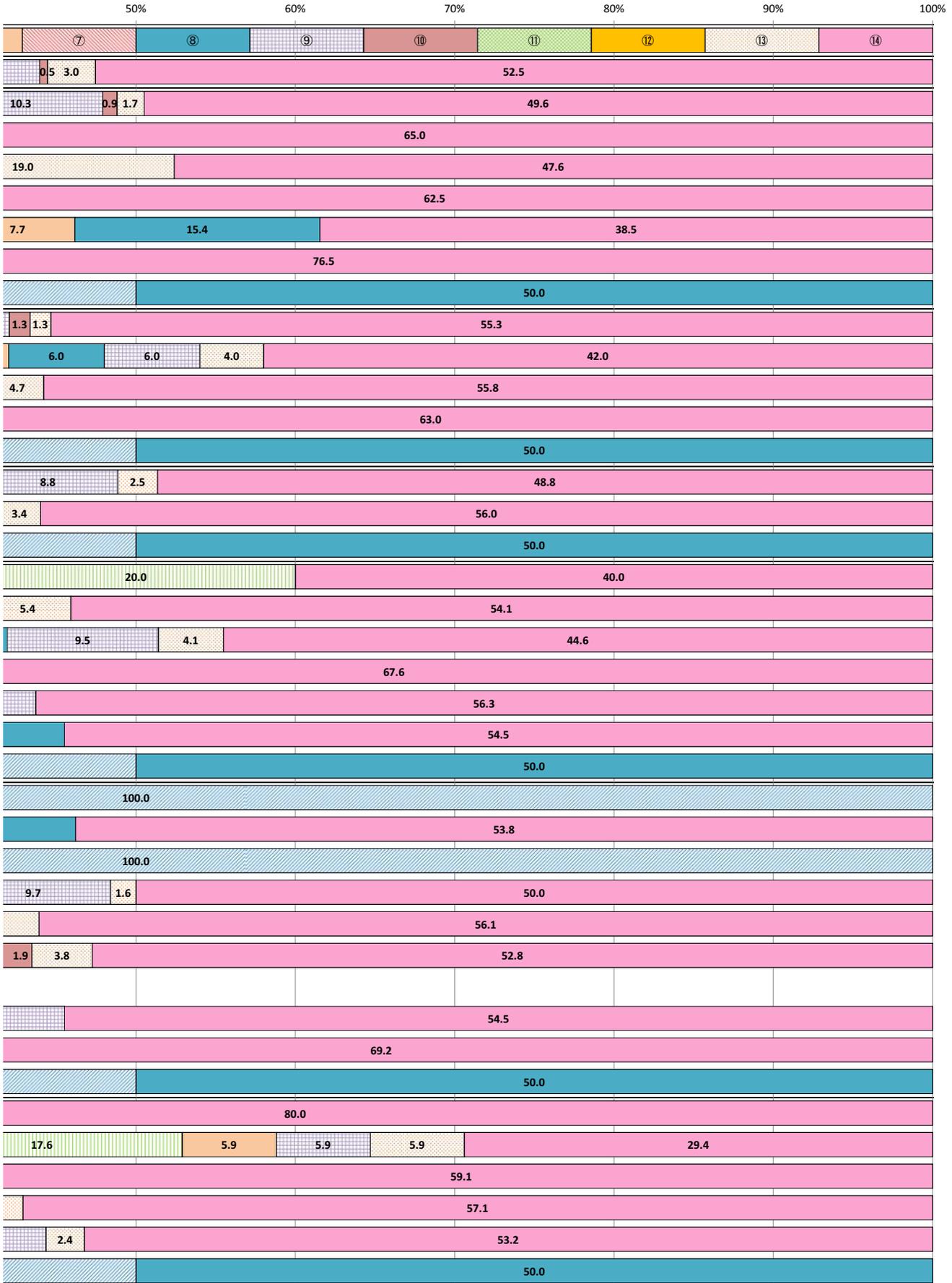
「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、自営業（農林漁業）（100.0%）と自由業（100.0%）が最も割合が高く、次いで無職（36.4%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、その他（15.4%）が最も割合が高く、次いで事務職系（9.7%）となっている。

【居住年数別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、1～5 年未満（35.3%）が最も割合が高く、次いで 20 年以上（28.2%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、20 年以上（7.3%）が最も割合が高く、次いで 10～20 年未満（7.1%）となっている。

- ①子育てや教育にお金がかかりすぎるから ②家が狭いから ③自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから ④子どもがのびのび育つ環境ではないから
 ⑤自分や夫婦の生活を大事にしたいから ⑥高齢で生むのはいやだから ⑦これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから
 ⑧健康上の理由から ⑨ほしいけれどもできないから ⑩夫または妻の家事・育児への協力が得られないから ⑪夫または妻が望まないから
 ⑫末子が夫の定年退職までに成人してほしいから ⑬その他 ⑭無回答





■「安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて」の調査を終えて

居住市町村に関する意識については、約7割の方が「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と回答されており、食料品などの日々の買い物の満足度に関しては、「満足している」若しくは「やや満足している」と回答された方が7割以上であった。

出産・子育てに関する意識について、実際に持つつもりの子どもの数が理想と比べて少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（40.4%）と回答された方が最も多く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」（14.1%）、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」（10.1%）となっている。

これらの調査結果も踏まえ、道内市町村をはじめ※産学官金労言の幅広い関係者と連携しながら、人口減少がもたらす様々な課題の解決に向けて、北海道創生総合戦略（推進期間：平成27～31年度）に基づき諸般の施策を計画的に推進していく。

(総合政策部地域創生局地域戦略課)

※産学官金労言

「産」＝ 経済・産業団体、保健・福祉関係団体、企業等

「学」＝ 大学、教育機関、研究機関等

「官」＝ 国、都道府県、市町村等

「金」＝ 金融機関

「労」＝ 労働組合、労働関係団体等

「言」＝ 報道機関等